（別紙4）　　平成　21　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3373000136		
法人名	有限会社K＆Kプロデユース		
事業所名	グループホームまきびの丘　（ひまわり）		
所在地	倉敷市真備町市場303-1		
自己評価作成日	平成22年2月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3373000136&SCD=320

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　ライフサポート
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1　県総合福祉・ボランティア・ＮＰＯ会館
訪問調査日	平成22年3月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

認知症高齢者が生活をするうえで生活の場である空間を整備することが大切であると考える。人間のみならず生物は全て環境適応力を持っており、意識するしないに関わらず環境の影響を受ける。したがってわれわれが目指すところは毎日飲用する水に着目、還元水を精製する器械を導入し、アルカリ水は飲用に、酸性水は加湿に（空間除菌用）掃除にと幅広く活用している。又インフルエンザ等感染症対策としてオゾンと紫外線による空間を除菌する器械を導入し生活空間を快適なものにしている。又建物の構造面では、天井を高く、広くすることでゆったり、落ち着いた空間を演出、介護者の目が届きやすい設計を心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

丁度5年前に真備町の小高い山の上に人間として自然の中で安全で健康な生活が出来、元気で長生きのできる日本でも代表的で誇りの持てるグループホームを開設した。社長は勿論、職員にも70歳までここで働きなさい。病になったらすぐここにお入りなさい。皆で明るく元気で死ぬまで頑張ろうよ。これは利用者に対して当然言えることである。地球上の生物はその環境によってその運命が左右される。人間が楽しく長生きできる環境（土地・建物・空気・水・食等）を整えた。そしてサービス提供する職員も満足のいく状況になってきた。利用者も明るく笑顔一杯で暮らしている。これから社長の描いた夢が一歩一歩と進められていく。文章では書ききれないので皆さん一度訪ねてみて下さい。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

（セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。）

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼時、理念及び介護者の心構えとしての誓い文を全員で唱和し、徹底を図っている。	理念（介護方針）と誓文（職員心構え）を社長が開設時に作り、職員には読むだけでなくその意味を理解して仕事をしてもらわねばならないと言う。目標を持ち、自分らしく明るく楽しく元気で長生きしてもらいたいと願っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会及び幅広いボランテイアの方々と交流、又時候のいいときは車で出かけている。（桜、梅、紅葉、鶴、海等の見学）	近所の住民は少ないが、町内会の人や地域のボランティアの人々のホームへの出入りは多く、ホームの施設も活用して利用者との交流もしている。このホームの庭園や将来に広がる果樹園など楽しみがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近くの幼稚園児と一緒にコスモスの種まき、花の見学を行い、又触れ合うことで認知症の人の理解を求めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を通じて地域の方との交流で認知症についての理解が深まり、会議でのご意見は多いにサービス向上に向け生かされている。	運営推進会議規約を作り、構成委員も幅広い人材の協力も得て2ヶ月に1回着実に開催している。倉敷市の職員も1回参加したが、常に包括支援センターの職員が出席している。有意義な意見交換が出来ている。	倉敷市の担当者も積極的に参加して、このグループホームの活発な活動を見てもらい、認知症ケアの今後の施策に生かしてもらいたいと願う。（外部評価機関要請）
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からないこと疑問、提案について行政担当者と連絡を取りあっている。	社長を始め、社長の子息がホームの企画を担当し、幅広い渉外関係を行えるようにしている。ホームのこれからの発展的な案件や課題になっていることも幅広く行政との連携も強められるようになっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないための方策を考えている。	利用者が安全で健康な生活を楽しく安心して過ごせるように出来る場である。身体拘束や虐待を絶対にしてはならないという原則はしっかりと職員間で話し合って、言葉や行動の中で抑止を徹底しているが、安全と健康第一であることも重要である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	折に触れ会議等で身体拘束、虐待防止について話し合っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これらに関係する事柄が無かったので実践できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解･納得を図っている	家族会等、又文書で説明を行い理解、納得を得るよう努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会のメンバーを公表し何時でも会長を通じ、又職員、管理者、施設長へ意見、要望が直接進言できるよう努めている。	隔月に運営推進会議の前に家族会を定期的に開催している。家族会会長を通じて平素からホームに意見や進言が出来る体制にある。この制度を通して、家族はいつでもホームへの要望が言える。	家族会の活動を通じ、このホームで生活を始めた利用者が以前に人間性を失って入所した状態が、このホームで生活することによって人間回復をした事例と家族の気持ちを発表してもらい、運営推進会議でもどんどん発表し議事録に掲載してもらいたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議等を通じ、施設の運営に関し疑問、提言があったら管理者、施設長に直接進言するよう常に働きかけている。	月1回の合同職員会議での発言や毎日の朝礼（申し送り、伝達）、カンファレンス等の会議で職員は自由に発言出来るよう進行している。職員間も明るく活発な行動を見ると意思疎通も出来ていると思う。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境･条件の整備に努めている	そのような方向で常に職場環境、条件の整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得助成制度を設け個々人が向上できる環境を整備し、助成もしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者で結成する「岡山県福祉事業共同組合」を通じこのような取り組みをしたい。今までも管理者、職員、入居者が相互交流をし、情報交換しているが定期的ではない。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	フェイスシート、バックグラウンドを通じ、まず入居者のことをしっかり熟知することからスタートし、入居者が困っていること、不安に思うことを最優先にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族から状況、要望を聞き取り不安の払拭に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族及び入居者の不安を取り除くことを最優先で考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	まきびの丘の介護方針並びに会議等を通じ常日頃から入居者との接し方について話し合っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との密な関係を作れるよう家族会、面会等を通じ関係構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来るだけ本人の馴染みのベッド、家具等の持ち込みを促している。	新しい人が入所すると、アルバムなどを使ってその人の生活してきた様子を利用者に紹介し、利用者全員でその自己紹介をして馴染めるきっかけに話しが弾むような雰囲気を作っていくようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ウッドデッキの整備を通じ、入居者お互いが触れ合える場所の提供に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	可能な限り、関係維持に努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人の意思を尊重し、可能な限り本人本位のケアをしている。	利用者の担当職員が居て、例えば部屋の片づけをしながらそこにへたり込んでゆっくり話をして、利用者の気持ちを聞くようにしたり、庭やテラスを散歩しながら話しをしてコミュニケーションをするようにしている。	利用者の思いや希望を見つけるために、職員が1対1でコミュニケーションをする体制をとっている事は素晴らしい取り組みだと思う。そこに職員の「感性」を研く試みをして欲しい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に記入いただいた部分と聞き取りにより出来たバックグラウンドに基ずき個人情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアカンファレンス、ケアチェック、モニタリングを通じて現状把握、将来に向けてのサービス計画に生かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族、又、ご本人の希望をベースに、全員参加で介護計画を作成し、状態の変化に応じた計画に随時更新している。	入居されると、施設長、管理者が面談をして1週間から10日間生活をしてもらいながらアセスメント、サービス計画を集めて担当者と職員でカンファレンスをして、本格的な介護計画を作る。順次計画と実行を深めていく。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、連絡ノートで職員間の連絡を密に、個人ごとの情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の状況に合わせ見取り介護にも取り組んできた。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の数多くのボランテイアの方々の訪問を受け一緒に楽しく、和やかなひと時を共に過している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域医療に非常に理解のある主治医に大半の入居者の健康面について管理して貰っている。月2回の定期往診で健康維持。	利用者の平素の健康管理は主治医の訪問診療や治療によって維持されている。受診は基本的に家族に連れて行ってもらうが、ホームでは医師に対し情報提供票を作り持って行ってもらい、状態は共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護記録、連絡ノート、引継ぎにより適切な受診が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	受診、入院については看護職、介護職が必要な情報提供を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人･家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、本人と見取り介護についての意向調査を行い、ご家族の現状況、意向を把握し、対応に取り組んでいる。(入所時契約書と同様、看取り意向の確認を取っている)	利用者の精神状態及び身体機能の重度化に対しては、入院の必要な医療措置がない限りホームでの生活をてもらっている。車椅子生活をしている人も多くいる。ターミナルケアも経験しているが、家族の意向と協力を確認し、医師･看護師の指導と協力でその都度確認する。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応方法について介護日誌に綴り、皆が勉強できるように対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、防火設備等災害対策に必要な確認項目を打ち合わせ、発生時の緊急連絡等確認しているが立地上地域との連携体制は取れていないのが現状。火災についてはまず火を出さないことを徹底的に教育している。	火災発生時の対応より火災を予防する体制を考え、月1回の職員会議で課題を見出し、例えば各部屋のコンセントにゴミが付着しないような用具をつかったり、電気毛布など古い物については接続部分、コード等良くチェックして点検をしっかりしている。当然訓練もしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の生活の中で可能な限り、個々の意志を尊重し、入居者と職員の信頼関係構築の為、職員間で成功の対応例を話し合っている。	人間性を重んじ、利用者と職員のハートを大切にしてケアとサービス提供をすることをモットーとして、いつも職員間で話し合っている。職員の精神構造の変化があった時はコミュニケーションを重視する。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	見守り支援と個々の生活上の役割（居場所の確保）分担を可能な限り促すよう言葉がけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	まきびの丘の介護方針にのっとりその人らしい生活の確保は出来ている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	平素整容には気をつけ衣服にふけ、髪の毛、食べこぼしのご飯粒等付着していないかチェックしている。又、ボランティアの方が来られ、行事の時等はほほ紅、口紅等する。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	持てる能力に応じ、個々に自己実現の場を提供している。	広くゆったりとしたリビングルームで気の合う人同士が隣り合い、人によっては別の場所で安心して食事が出来るようになっている。その間に職員もその日の状態に応じて中に入って一緒に楽しい食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面については管理栄養士が居る業者から食材の提供を受けている。水分量の確保の重要性を職員間で共有し、様々な工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の後、口腔ケアを全員に行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄については薬に頼らず、出来る限り自発的に排泄できるよう、定期的に運動の後便器に座る習慣づけを行い、出難い入居者については便器に座ってからのの字マッサージを行うようにしている。	座位が保てる人の排泄は便器ですることを基本とし、自立している人は声掛けと見守りで誘導してトイレに連れていく。全介助の人等すべてに職員は支援をしている。ポータブルトイレも使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	あくまでも自発的な排便を促す為、朝食前の還元水の飲用の義務付け、又、毎日体操後の運動をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々人の意思を重んじ、希望やタイミングを考え支援している。	週3回は入浴できるようにしている。入浴しない時は足浴をする機械があり、入浴剤やマッサージ機能が付属したベットでゆっくり足を温める。日光が射し込み、観葉植物の中でゆっくり足浴するのも良い心地。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	高齢になると短時間の昼寝は重要と考え、言葉がけを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の「既往症一覧」で既往歴、薬の内容を把握し、主治医とも協議の上、薬も含め健康管理上必要な処置を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	まきびの丘の介護方針にのっとり支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	時候のいい時期には散歩に出かけている。が立地の関係上買い物等には行けてない。	ホーム自体がレクリエーション施設のようで、前面には広い庭園と農園が広がり、眼下に街並みを見ながら散歩もできる。ホームの敷地もゆっくり散策出来る。ドライブ･季節的外出･外食もしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則制限はないので、本人とご家族の判断で所持している方は毎週車で売りにこられるパン等のお菓子類をスタッフと一緒に購入されることを楽しみにしておられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望がある方については支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室、リビングの温度、湿度は年間を通じてチェックし、必要な対応をしている。	ホームのこだわりが『美･食･水･健』である。先ず水を電気分解してアルカリ水と酸素水を作り、飲料･食用と洗浄等の用途毎の水を使用している。オゾン発生装置で風邪予防に役立っている。ＡＥＤも設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出来るだけ様々な生活スタイルに応えられるよう落ち着ける場所づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り、馴染みの家具、調度品の持ち込みをご家族にお願いし、居心地良く過ごせることを心掛けている。	ホームは一つの社会である。リビングルームは利用者のコミュニティの場であり、居宅は利用者の家である。コミュニティでの緊張感と交流の楽しさから居室に帰ってほっと安心して過ごせる場となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	持てる能力を生かし、役割、居場所を確保し、人様の役に立っているんだと自覚できるよう声かけしている。		